

～ 令和3年度 全校集会（前期終業式）「校長講話」～

皆さん、こんにちは。校長の相模です。

今日は、前期の終業式です。4月からスタートした常盤高校の本年度の学校生活が半年終わって、今がちょうど折り返し点になります。この半年を振り返ってみて、前期は皆さんにとってどんな学期だったでしょうか。コロナ禍でいろいろな制約があって、学校行事、部活動、看護実習などで十分に本領発揮できなかった部分があったかもしれません。皆さんが、高校生活をもっと満喫できていろいろなことに挑戦したり、友達や仲間との学校生活を、感染症のことを気にせず思いっきり楽しんだりできればどんなに良いだろうか、と思うと私も校長としてとても心苦しく思うことがあります。しかし、そのような中でも、皆さんは、いつも笑顔で明るく前向きに学校生活に取り組んでいたのではないかと、日ごろの皆さんの様子を見て感じています。先日、前期の成績会議が行われ、皆さんの成績状況が会議の中で報告されました。10段階評価で平均が8.0以上という成績優良者がとてもたくさんいました。よく頑張ったと思います。残念ながら成績が振るわなかった人はこの前期の学習を振り返って、後期の挽回につなげてほしいと思います。

さて、今週末の10月1日から、いよいよ後期がスタートします。今日は、後期を迎えるにあたって、皆さんに次の言葉を送ります。

There is no man living who isn't capable of doing more than he thinks he can do.

皆さんは、しっかり英語も勉強していますので、大体の意味はわかるかと思います。日本語に訳すと「どんな人間も、自分が思っている以上のことができる」となります。これは、アメリカの企業家で、フォードという自動車メーカーの創業者であるヘンリー・フォードが残した言葉です。私はこの言葉がとても好きなのですが、皆さんはどう感じたでしょうか。

人は誰でも生まれつき「もっと在りたい自分になりたい、もっと向上したい」などのように、成長へと向かう潜在的可能性があるかと、多くの心理学者が指摘しています。赤ちゃんが、はじめは這い這いからスタートして、そのうち掴まり立ちするようになって、やがて自分で歩き出す…という成長過程に象徴されるように、誰かに教えてもらわなくても、人は成長するための潜在的能力をみんなが持っていると言われていています。皆さん自身は自分を振り返ってみてどうでしょうか。誰か他の人と比べて「自分は才能がないな」とか「〇〇さんと違って、自分はいまうまくできないな」などと考えてしまうことってあるかもしれませんね。でも、人と比較してでなく「自分自身がより成長できたか?」、「昨日より今日の方が、もっと素敵な頑張る自分になれたか」などと意識しながら後期の学校生活を送ってほしいなあ、というのが私からの皆さんへの願いです。

コロナによる緊急事態宣言もこの9月末で解除される見込みです。したがって、10月からの後期は、再びみんな揃って通常の学校生活が始まる予定です。前期よりもさらに有意義で、皆さん一人一人がもっと輝けるように、皆さん自身が気持ちを前向きに見据えて頑張ってください。では、これで校長講話を終わります。